

経済・金融 フラッシュ

10月ECB政策理事会:追加の3年物 資金供給の可能性を排除せず

経済研究部 上席研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

欧州中央銀行(ECB)は、2日に10月政策理事会を開催、政策金利の据え置きを決めた。

ドラギ総裁は、中期的な物価安定に対する評価と整合しない短期金利の上昇については「あらゆる手段を活用する用意がある」と述べ、追加の3年物資金供給など追加措置の可能性を排除しなかった。

来年実施予定の域内銀行の資産査定の詳細を10月下旬に公表することも明らかにした。

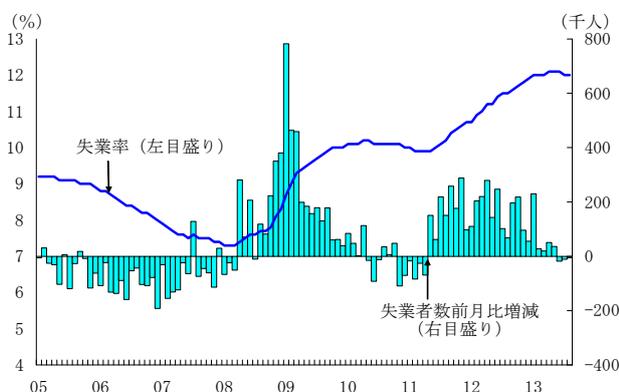
(市場の金利上昇期待を牽制。「必要に応じて行動する用意がある」)

欧州中央銀行(ECB)は、2日に10月の政策理事会を開催、利下げについて検討した上で、政策金利の据え置きを決めた。

ユーロ圏経済は4～6月期に6四半期にわたる景気後退局面を脱し、緩やかな回復局面に入った。ECBは、景気回復の初期の段階での金利上昇を抑制するため、7月に「政策金利は長期にわたり(an extended period of time)、現在の水準か、それよりも低い水準に留まる」との見方を示すフォワード・ガイダンスを導入している。

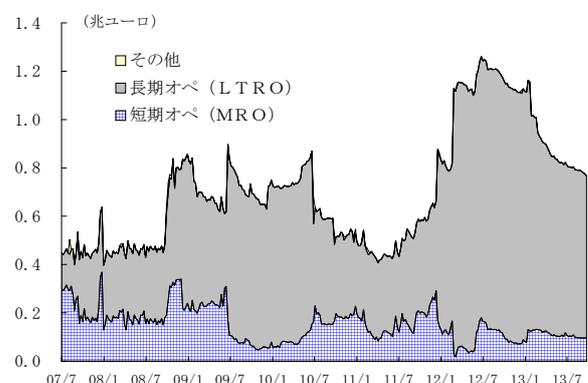
しかしながら、失業の増大に歯止めが掛かりはじめるなど(図表1)、景気回復を裏付ける経済指標が増えていること、3年物オペ資金の前倒し返済(図表2)による過剰流動性の削減はさらに進んでいることから、ECBの意図に反して、市場金利は上振れやすくなっている。

図表1 ユーロ圏の失業率と失業者数の増減



(資料) 欧州委員会統計局

図表2 ECBの資金供給残高



(資料) ECB

景気の回復とともにECBが次の一手として追加利下げに踏み切るとの見方は後退しているが、3回目の3年物資金供給（LTRO）を実施すると観測は根強く残っている。

ドラギ総裁も、政策理事会後の記者会見で、市場金利の動向を注視し、中期的な物価安定に対する評価と整合しない上昇には「追加のLTROを含むあらゆる手段を活用する用意がある」と述べ、追加措置の可能性を排除しなかった。

追加のLTROとの関連で過剰流動性の水準への注目度が高まっている。ドラギ総裁は、ECBが今年2月の月報に掲載したレポートで指摘した『過剰流動性が2000億ユーロを下回ると短期市場金利に上昇圧力が加わる』という関係性は「安定的なものではなく、域内の銀行市場の分断という状況では、より高い水準の流動性が必要だが、分断が解消されれば、必要とされる水準は低下する」と述べ、関係性を重視し過ぎないように牽制した。

（銀行の資産査定の詳細は10月下旬に公表へ）

ECBは、来年秋の単一銀行監督制度（SSM）の創設に先立って域内銀行の資産査定を実施する予定である。ドラギ総裁は、資産査定の詳細について10月下旬に公表する方針であることも明らかにした。

これまでの欧州銀行監督庁（EBA）による取り組みは、ユーロ圏の銀行市場の透明性と信頼の向上にはつながらなかった。今回は、域内銀行市場への不安を払拭し、銀行市場の分断の解消に資する取り組みとなることが期待される。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。